

# 園芸情報

園芸指導販売係  
清水 賢一



## ◎きゅうりの生理障害について

これから夏本番。気温も上昇し、きゅうりにはさまざまな病害が発生しやすい時期です。適期防除と適切な管理で長期間の収穫を目指しましょう。



尻細り果



尻丸果



流れ果



曲がり果

※きゅうりが起こしやすい生理障害には、いくつか種類があります。目立ちやすいのは曲がり果や変形果（尻太果・尻細り果）です。

## ① 生理障害の原因と対策について

障害名	症状と原因	対策
流れ果	雌花が咲いても実がほとんど大きくならず、黄変したりしぼんでしまう症状が出る。おもな原因は、日照不足によるもの。	十分な光合成ができるよう、過繁茂を避け、日当たり、通気性の良い環境を整える。
曲がり果	見た目の通り、実が曲がってしまう症状が出る。支柱やネットなどが当たることで、物理的に曲がることもあるが、光合成不足や水分・肥料不足などでも実が曲がりやすくなる。	日当たりの良い環境を作り、追肥や灌水が不足しないようにする。開花した時点で曲がっているものは、小さいうちに摘果する。
尻太果 尻細り果	お尻の方が膨らんでいたり、逆に細くなる症状が出る。水分・栄養不足、夜間の高温が主な原因。	計画的肥培管理による樹勢の維持、適切な灌水、摘葉。過度な摘葉は避ける。

## ② 病害の原因と対応農薬について



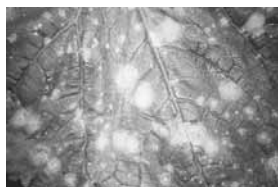
### ●ベト病

葉に発生。下葉から発生し、次第に上葉に広がる。気温20～24度位で多湿時や樹勢低下時に発生しやすい。



### ●斑点細菌病

葉、茎及び果実に発生。最初に円形の斑点を生じ、のちにヤニを出す。比較的気温の高い時期に発生が多く、雨により病原菌が飛散して伝染する。



### ●褐斑病

葉に発生。次第に拡大して大型の円形の病斑になる。排水不良、窒素過多、肥料不足の場合に多く見られ、高温多湿条件で発生しやすい。

対応農薬	薬剤名	希釈倍率・散布液量	使用時期	使用回数
	アミスター 20フロアブル	1500～2000倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	4回以内 (予防+治療)
ジマンダイセン	600倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	3回以内 (予防)	
Zボルドー	500倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	無制限 (予防)	

対応農薬	薬剤名	希釈倍率・散布液量	使用時期	使用回数
	ベフドー水和剤	500倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	7回以内 (予防+治療)
カスミンボルドー	1000倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	5回以内 (予防+治療)	
ヨネポン水和剤	500倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	4回以内 (予防)	

対応農薬	薬剤名	希釈倍率・散布液量	使用時期	使用回数
	ダコニール1000	1000倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	8回以内 (予防)
アミスター 20フロアブル	2000倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	4回以内 (予防+治療)	
ゲッター水和剤	1500倍 100～300 $\frac{\text{L}}{\text{a}}$	収穫前日まで	5回以内 (予防+治療)	